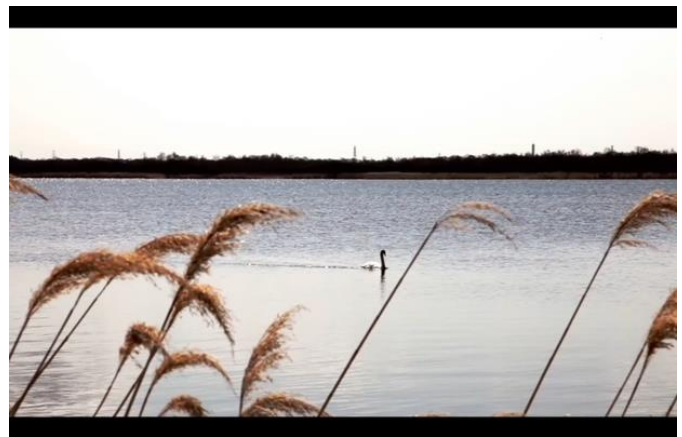


## 苫小牧市美術博物館

### 北海道苫小牧市沿岸地域における景観の変遷に関する研究

調査研究期間：平成30年5月1日（火）～平成31年3月31日（日）



#### 【調査研究の内容・目的】

- 苫小牧という地域は海との付き合い方によりその歴史を辿ってきた。まちの形態が漁村から港湾都市へと変わるにつれて育まれてきたこの土地ならではの文化的特質や都市景観における特質を抽出することが本研究の趣旨である。
- 歴史的視点や芸術学的視点から資料や文献のリサーチ、踏査、それらに付随するアンケート調査などを行い、苫小牧沿岸地域の景観が海をめぐる土地の歴史の中でどのように変化してきたかについて調査する。
- 映像制作により、現代の苫小牧の沿岸地域の景観を映像資料として残すことで、今現在の苫小牧が抱えるこの土地ならではの文化的特質や港湾都市としての景観を後世に残し、未来の「海の学び」につなげることができる。

## 1. 調査研究内容の詳細

### 【調査研究代表者】

■福田絵梨子（苫小牧市美術博物館 学芸員）

### 【調査研究分担者】

■武田正哉（苫小牧市美術博物館・主査）

■安田葉（美術家）

### 【実施計画】

■1ヶ年計画 1年目

### 【主な調査研究対象など】

■文献資料、写真資料

■聞き取り調査及び踏査

■一般市民（アンケート調査）



### 1. 勇武津資料館、勇払地区 平成 30 年 5 月 28 日

江戸時代後期の勇払会所配置図や図絵の複写資料を閲覧調査し、現代の地理や地形と比較検討し、景観の変化の過程について、知見を得た。さらに、勇武津資料館関係職員に勇払地区のかつての漁場に関するインタビュー調査を行った。これによって、江戸時代後期から明治の初めころまで、蝦夷地東海岸における行政や交易の中心地であった勇払地区で営まれてきた海とともにある暮らしの在り方を把握した。また、勇払会所の跡地を実見し、かつての港と現在の苫小牧港との異なる地理条件について、規模・立地・眺望の面から把握した。



## 2. 郷土文化研究会への聴取 平成30年5月29日

郷土文化研究会から聞き取りを行い、同会が過去に収集・記録した写真資料や文献資料の熟覧調査を行った。これにより、大正時代から戦後にかけて苫小牧沿岸地域の基幹が漁業から物流の拠点へと姿を変えるに伴い、沿岸地域のみならず苫小牧全体の都市景観が変化していったことに関する知見を得た。さらに、築港に関する写真資料や絵画資料からは、変化の過程をビジュアルイメージとして把握することができた。



## 3. 勇払川旧古川地区 平成30年5月30日

現在の苫小牧市東部の勇払地区は江戸時代後期以来、川を辿ってきた丸木舟と海から来た北前船をつなぎ、長い間蝦夷地東海岸における行政や交易の中心地の役割を担ってきた。勇払川旧古川地区は、現在は改修され面影をみることができないかつての勇払川の景観を残す地区である。現地を踏査し、海と陸をつなぐ結節点であった勇払地区の立地や眺望を把握した。現地踏査の成果と、出土資料や、古地図を照らし合わせることで、具体像が知ることができる。



アンケート

本日ご覧になりました。ありがとうございます。お返事は、これまでお寄せいただいたアンケートの回答を参考にさせていただきます。アンケートの回答は、今後の展示やイベントの企画に活用させていただきます。ご回答のうえ、ご感想やご意見をお聞かせください。

（1）性別  男性  女性

（2）年齢  10代  20代  30代  40代  50代  60代  70代以上

（3）職業  公務員  会社員  自営業  ロボット・AI/IT  その他  無職

（4）お住まい  五の牧市内  五の牧市外  他府県内(市町村別)  北海道内(市町村別)  その他(市町村別)

（5）お住まいの地域  五の牧市  五の牧市以外

（6）この展示について、おもしろいと思った点をお聞かせください。おもしろくないと思った点をお聞かせください。また、ご意見やご要望をお聞かせください。

（7）この展示について、より充実の企画、イベント等をお勧めください。

（8）一般的な「展示」や「展示のあり方」に対して、どのようなイメージをお持ちですか？

（9）展示物に、（7）でお答えいただいたようなイメージをお持ちですか？

□はい □いいい □その他

（10）【注】お「展示」によりおもしろいと感じ、思い出がよくなりましたら、ご感想をお聞かせください。

□はい □いいい □その他

五の牧市美術館 企画・制作 五の牧市美術館 企画・制作 五の牧市美術館

#### 4. 映像資料及び副読シートの作成

資料調査や聞き取り調査を踏まえ、五の牧市内各所への撮影を行い、現在の五の牧の景観上の特質を描き出す映像資料を作成した。2018年7月14日（土）～9月24日まで五の牧市美術館で開催した特集展示内で映像の一部を上映した。その後、上映後の来館者の反応及び、海に対するイメージ調査（アンケート）をもとに映像をブラッシュアップを行った。さらに、映像を活用した学校教育現場での授業展開を検討し、副読シートの作成を試みた。

## 2. 本調査研究成果を基に計画・実施可能な 「海の学び」に繋がる博物館活動案

- 博物館活動の形態：映像資料を活用したアウトリーチ事業
- 実施時期：数年来
- 実施場所：苫小牧市内小中学校

### 【実施内容】

■苫小牧という地域は海との付き合い方によりその歴史を辿ってきたが、一方で現在の港は、従来の地形に手を加えた掘り込み港のため、海との関わりはほかの港町とは異なる様相を呈している。子供たちが海存在を身近に感じ、海のあるまちならではの景観や自然現象に親しみ、地域の海に対する学びを促すことを目指す。

■アーティストと子供たちが港や海岸を散策し、気になるところを写真や動画で撮影し、撮影した場所や、モノ、植物や自然現象が海とどのような関わりをもつものかを調べ、作品づくりを行う事業を実施する。

■海を感じやすい風景や植物を導入にし、その後一見すると海を感じにくいような場所にも実は海を感じられる要素がないかどうかを各自の視点で探る。

■見慣れた風景でも、様々な見方ができることを学び、それらを集めることで特別なイメージとしてとらえられることを知ることを目指す。

■当館では、これまで継続的にアーティストを学校教育の現場に派遣し、様々なプログラムを行う事業を行ってきたが、地元の海を取り入れた内容は行ったことがない。本調査で得た調査方法や、映像作成のノウハウを事業に展開することで、苫小牧ならではの海のある景観の豊かさを学び、親しみをもつ事業を行うことができる。

### 【他の博物館・機関や地域社会との連携や取り組み内容】

- 港周辺や海岸の管轄先に協力を仰ぎ、散策や撮影を行う。

### 【特に学校教育との連携について】

- 映像資料及び鑑賞の補助教材を事前・事後学習に活用してもらう。

- アウトリーチ事業による成果物を館内に展示する。

## 【事業全体のまとめ】

本サポート事業を活用したことによって、外部からの研究分担者を招聘することができた。これにより、地元と地元以外の両面から、苫小牧の海をめぐる文化的特質や景観に対する幅広い視点を創出することができた。苫小牧の現状の風景を捉えた映像資料の作成を通じて、今現在の地域の在り方に多様な視点をもつことで、日々のあたりまえの風景が特別なイメージとしてとらえられる可能性を創出できた。苫小牧ならではの文化的特質や港湾都市としての景観が、一面的なものではないという一つのあり方として提示する今回の映像資料は、未来の「海の学び」につなげることができると感じる。

本研究においては、映像資料の作成という形を採用したが、調査で得た成果をさらに別の形で共有していく方法について今後のさらなる可能性を感じるものとなった。

## 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 勇武津資料館	資料調査及び聞き取り調査への協力
2. 郷土文化研究会	資料調査及び聞き取り調査への協力

## 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. なし	

以上